

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200471		
法人名	医療法人 紫雲会		
事業所名	グループホーム かわたな A		
所在地	〒859-3615 長崎県東彼杵郡川棚町下組郷379番地		
自己評価作成日	平成21年12月20日	評価結果市町村受理日	平成22年3月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内の中心部に当ホームが位置しており、周辺に病院や買い物ができるところがあり、家族や馴染みの方が気軽に足を運んで下さる。ホーム内においても、それぞれ入居者様の思いや、役割を十分に引き出せるよう、職員の対応を細やかにしている。家族様にも「かわたなだより」にて様子を報告したり、適宜電話で状況を伝え、家族の方にも安心して頂けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人の当ホームは、地域の知名度・立地条件においても利便性にすぐれている。職員は、利用者と共に買い物に出かけるなど、家族も気軽に訪問ができる。基本理念に沿って、介護理念をホーム名かわたなの4文字で、解かりやすく文言で示され実践されている。中央の事務所から双方のユニットの状況がみれるので、職員相互に連携を取られていて、穏やかに笑顔で利用者に関わられている。職員の処遇もよいので離職がなく、馴染みの関係継続ができています。改善点は、すぐに手がけて介護記録も詳細に、職員間において解かりやすく共有されており、家族は、職員の献身的な対応に安心を得られている。穏やかな笑顔の関わりを大切に、利用者の生活の維持と継続に努め、内外の研修にて研鑽を重ねている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、食堂の見えるところに掲げ、皆で共有し実践につなげている。	開設時の基本理念、及び身近な介護の目標として、ホームの名前を頭文字にして、家庭的で、笑いのあふれる、楽しい、馴染みの場の提供に努め、月1回の会議で理念の唱和をされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加し、交流している。	グループホーム連絡協議会(三ヶ月に一回開催)において、敬老会会場で消防署を招き、普通救命講習の勉強会を主催され、全職員が終了証を授与、地域の手助けをと、努力されている。また、一年に一回、地域の消防団も加わり、消防訓練の実施など広範囲に協力が得られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の代表の方に出席して頂き、理解・支援の方法を活かしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で報告したり、意見を頂いた時は、スタッフで話し合っサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、二ヶ月を目途に開催されており、利用者の代表も参加されて、ホームのあり方、認知症の理解、サービスの内容などを課題として、行政の説明や利用者の様子など双方向的な話し合いをされている。	更なる地域力を高める上で、交流を持たれている(消防・派出所・保育園園長・子供会会長等)の主たる方々への会議の参加の声かけに期待して意見の傾聴が望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者との連絡や、運営推進会議にて報告することで、協力・関係を築いている。	入居における相談を、町の担当者が中心になって対応される。また、介護保険制度の問い合わせなど、歩いて担当課へ歩いて行ける距離なので常に、顔の見える関わりができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、話し合いを行い拘束にならないケアを目指している。	家族の思いを大切に、言葉のかけ方ひとつひとつにも、職員相互に学びの姿勢で意見を交わされている。利用者の取り組みへの行動を制止しないように、距離をおいての見守りに心がけて、利用者は満足感を得られて穏やかに過ごされている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や会議などで学び、職員一人一人が注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や会議にて、学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約当初はもちろんの事、介護報酬の変更や利用料金の変更時は、その都度家族に文章でお知らせしたり、家族会で説明して、理解・同意を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様にアンケートを行ったり、面会時に意見・要望等を伺い、運営に反映させている。	家族会は年二回、無記名のアンケートを三月に実施されている。家族の訪問時に、利用者の状況報告・意見・要望は職員の対応でお聞きして、管理者へ報告をされている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が、ミーティングの際に職員の意見や提案を聞き、代表者はその意見を運営に反映させている。 又、職員が直接代表者に意見を言えるような職場環境整備に心がけている。	利用者との顔馴染みの、継続支援の大切さを認識されていて、職員の関係作りに努力されている。勤務体制の優遇により、産休や育休を利用されている。全職員が救急救命講習を受ける等、夜勤時の対応にも不安のない様に、研鑽を積み重ねている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を策定し、働きやすい環境整備に努めるとともに、常に向上心をもって働けるよう内部研修を充実させ、又、資格習得の為に勉強会を開き、取得者は表彰もしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内等を通知し受講するよう働きかけたり、理事長(医師)やベテラン職員による内部研修を行い、常に知識・技術の向上ができる様努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の同業者と連絡協議会をつくり、管理者などが意見交換などをできる機会をついている。その活動を通じて得た情報等をサービスに反映させ、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人様の要望を十分に聞き、安心したサービスの開始になるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人様と同様、十分に耳を傾け、今後の関係を築けられるよう心がけている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>情報を十分に聞き、その方にあったサービスを提供できるよう対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者、職員の立場に分かれないう、さりげない声かけ、介護を心がけている。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会の際情報を頂き、家族様の思いや、本人様のいろんな面をしり、家族も交え一緒にサポートしていけるよう協力を頂いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>デイサービス利用者の面会や交流もあり、個々にあった外出では知人に会われ、以前の関係ができています。</p>	<p>積極的に地域の行事に参加して、地域の方との出会いを楽しまれて会話される機会を得られるように支援されている。また、家族の理解と協力も得られている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>スタッフが会話の橋渡しになり、自然に関わりがもてるように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してからも連絡を行い、状況にあわせて、対応をし、途切れない関係作りにつとめている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思い等、その都度お聞きしたりと把握に努め、困難場合は家族から情報を得たりしている。	利用者一人ひとりの個性を大切に、好きなことができるよう生活の中で言葉にして伝えられない思いを、表情・身振りなどの把握に努め、また生活暦を十分に把握できるように家族の協力も得られている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや、本人様・ご家族様などに話を伺い、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやミーティングなどを通して、常時、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度モニタリングを行っているが、見直しがある場合にも、その都度話し合いの場を設けて、介護計画の作成を行っている。	改善目標に記録の取り方等の見直しをされ、利用者の生活暦の把握と、記録方法の研修により職員が日々の記録で利用者の様子が解かるような記録方法を実践されている。介護計画に出来なかった理由を振り返り、継続支援に繋がられている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目の欄をつくり、わかりやすい記録の工夫をしたり、ケアプラン実行表を活用することで職員一人一人が把握し、介護に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様のニーズに必要なものや、時には家族に相談を行ったりして対応をしている。又、家族の状況を把握し、外出援助なども取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の趣味や職歴を活かした作品を作り、町の文化祭に出展している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の定期受診を設けている他、状態の変化等があれば、すぐに主治医へ相談・診察をお願いしている。 また、家族にもその都度、状態や受診結果の報告をおこなっている。	皮膚科や歯科受診は、家族へ依頼したり、職員が受診に同行して対応されている。容態変化があれば主治医の判断で適切な医療の支援に努められている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が対応できない場合(医療行為)は、デイサービスの介護職員に適切な処置などをしてもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、適宜面会に行き、病院の看護師に入院中の様子を探っている。情報を共有して安心した生活が、継続できるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される時や、その時期になられたときに家族の希望を尋ね、スタッフ全員が本人・ご家族の希望に応えられる様、その都度ミーティングを開き、支援方法について話し合い、介護にあたっている。	代表者が家族会で説明され、利用者の容態の状況にそって、他県に住む家族の意思の共有も話し合っていたり、その都度、家族への説明に努められている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員より、スタッフ全員が普通救命講習を受けている。 理事長より、月に2回、勉強会を開いてもらい医療面について学んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団と連携をとり、定期的に火災・地震を想定した避難訓練を行っている。	消火器は、定期的な交換や必要があれば、追加されている。利用者の緊急時の持ち出しファイルリスト(顔写真入)も作成されている。また、緊急連絡体制のマニュアルは、事務所の机の上に貼りつけてあるので見やすく、備蓄体制も整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重に努め、言葉掛けや対応について、ミーティングで話し合うなど、日々の支援のあり方を検討している。	言葉で言えない思いを行動や表情を見落とさないように、心がけて耳を傾け利用者の、筆談で意思の聞き取りにの支援に努められている。利用者の記録等の書類は、鍵つきの書庫に保管されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望や思いを尊重し、表現できる様声かけを行っている。 また、言葉の出にくい方へは、時間をかけ表情や行動にて理解に努めといる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでのおおまかな1日の流れはあるが、一人一人のペースに合わせ支援している。 また、本人様の思いがわかるような声かけを行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の馴染みの理髪店などに出掛ける機会を設けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを調査し、すぐに分かるよう表に示して、献立に活かせる様、工夫している。 また、調理の下ごしらえ、下膳などその方の力を引き出し、役割を持ってもらえるよう支援している。	利用者に「食べたいものはありますか」と聞いて献立を変更したり、利用者の嚥下防止のために、飲み込みの具合を考慮して献立の変更に努められている。また、栄養士に、年に四回献立のチェックを実施されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や水分量の記録を行い、把握している。また、摂取量が少ない場合は個人の好みの物で補うよう工夫している。その方の力を引き出すよう、自力摂取ができる様に声かけや食器の工夫を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の能力に応じて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄をチェック表を活用し、定期的にトイレ誘導にて排泄できるように支援している。	利用者一人ひとりの、排泄の時間を解かり易い記録で把握して、トイレに行きたい意志を見逃さないように対応されている。すべての利用者は、昼間布パンツを使用され、夜間時数名だけオムツの使用をされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、牛乳や野菜ジュースを飲んで頂いたり、好みの物ですい便摂取量が増えるように工夫している。また、レクリエーションや散歩にて身体を動かされるようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備を行い、その方の希望に添えるようにしている。また、本人様の好みに合わせた湯の温度調節を行っている。	利用者の生活リズムと希望に沿って、ゆず湯や花びらを浮かべ、季節感を味わってもらえるように工夫をされている。入浴を嫌がられる時は、声かけの職員が変わったり、時間をずらして気持ちよく入浴して頂き、お風呂の掃除をされる方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に身体を動かして頂くなど、活動を考え、一人ひとりの生活習慣に合わせて、居室誘導を行っている。また、その方にあった室温や寝具などを配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を個人別に記入し、変更があった時も確認しやすい工夫をしている。各個人の薬の内容を勉強会で説明をうけている。投薬マニュアルにそって実施し、徹底した服薬管理に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様ができられるような作業はお願いし、役割を持ち生活で起用に支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画を立て、外出したり地域の行事・祭りなどには、職員と一緒に出掛けている。	介護の理念にそって、馴染みの場の大切さを意識して、町の敬老会や発表会の見物、期日前の投票等への外出支援に努められている。サービス利用の方との、顔馴染みの交流も支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望はもちろんのこと、お金をもって出掛けられることも支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に添って電話をかけるお手伝いをしている。手紙は本人様を書けなければ代筆したり、写真を入れたりして本人様の様子が伝わるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面にも配慮した空間作りを行い、家庭に近い雰囲気でも過ごせるよう工夫している。テーブルや居室には、季節の花を入居者の方が生けていらっしゃる。	ケアの目標として、家庭的で笑い溢れる楽しい馴染みの場の提供に努め、生け花の先生をされていた利用者が他の利用者に指導をされて、居間は花いっぱいでも和みを感じられる。吐き出し窓の外はウッドデッキで、バーベキューをされる時もある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたい時は、居室に戻りゆっくりしていただく。 食事やくつろいだ時間は、入居者様同士と一緒に楽しくできるように支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	独り部屋になっており、テレビがあったり写真・花が飾ってあり、本人様が居心地良く落ち着いて過ごせるよう工夫している。	利用者の生活暦の継続支援に努め、手作りはたきを使えるようにしたり、鉢植えの水遣り、考えられた川柳を彩りよく折り紙を使い掲示して、いつでも眺められるように工夫されている。利用者ひとり一人の趣のある、居室に配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	仲間同士で、会話ができるように工夫し、ソファや畳も利用しやすくし、ゆっくり過ごすことができている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200471		
法人名	医療法人 紫雲会		
事業所名	グループホーム かわたな B		
所在地	〒859-3615 長崎県東彼杵郡川棚町下組郷379番地		
自己評価作成日	平成21年12月20日	評価結果市町村受理日	平成22年3月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、食堂の見えるところに掲げ、皆で共有し実践につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加し、交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の代表の方に出席して頂き、理解・支援の方法を活かしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で報告したり、意見を頂いた時は、スタッフで話し合っサービス向上に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者との連絡や、運営推進会議にて報告することで、協力・関係を築いている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、話し合いを行い拘束にならないケアを目指している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や会議などで学び、職員一人一人が注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や会議にて、学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約当初はもちろんの事、介護報酬の変更や利用料金の変更時は、その都度家族に文章でお知らせしたり、家族会で説明して、理解・同意を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様にアンケートを行ったり、面会時に意見・要望等を伺い、運営に反映させている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が、ミーティングの際に職員の意見や提案を聞き、代表者はその意見を運営に反映させている。 又、職員が直接代表者に意見を言えるような職場環境整備に心がけている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を策定し、働きやすい環境整備に努めるとともに、常に向上心をもって働けるよう内部研修を充実させ、又、資格習得の為勉強会を開き、取得者は表彰もしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内等を通知し受講するよう働きかけたり、理事長(医師)やベテラン職員による内部研修を行い、常に知識・技術の向上ができる様努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の同業者と連絡協議会をつくり、管理者などが意見交換などができる機会をつくっている。その活動を通じて得た情報等をサービスに反映させ、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人様の要望を十分に聞き、安心したサービスの開始になるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人様と同様、十分に耳を傾け、今後の関係を築けられるよう心がけている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>情報を十分に聞き、その方にあったサービスを提供できるよう対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者、職員の立場に分かれないよう、さりげない声かけ、介護を心がけている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会の際情報を頂き、家族様の思いや、本人様のいろんな面をしり、家族も交え一緒にサポートしていけるよう協力を頂いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>デイサービス利用者の面会や交流もあり、個々にあった外出では知人に会われ、以前の関係ができています。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>スタッフが会話の橋渡しになり、自然に関わりがもてるように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してからも連絡を行い、状況にあわせて、対応をし、途切れない関係作りにつとめている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思い等、その都度お聞きしたりと把握に努め、困難場合は家族から情報を得たりしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや、本人様・ご家族様などに話を伺い、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやミーティングなどを通して、常時、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度モニタリングを行っているが、見直しがある場合にも、その都度話し合いの場を設けて、介護計画の作成を行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目の欄をつくり、わかりやすい記録の工夫をしたり、ケアプラン実行表を活用することで職員一人一人が把握し、介護に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様のニーズに必要なものや、時には家族に相談を行ったりして対応をしている。又、家族の状況を把握し、外出援助なども取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の趣味や職歴を活かした作品を作り、町の文化祭に出展している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の定期受診を設けている他、状態の変化等があれば、すぐに主治医へ相談・診察をお願いしている。 また、家族にもその都度、状態や受診結果の報告をおこなっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が対応できない場合(医療行為)は、デイサービスの介護職員に適切な処置などをしてもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、適宜面会に行き、病院の看護師に入院中の様子を尋ねている。情報を共有して安心した生活が、継続できるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される時や、その時期になられたときに家族の希望を尋ね、スタッフ全員が本人・ご家族の希望に応えられる様、その都度ミーティングを開き、支援方法について話し合い、介護にあたっている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員より、スタッフ全員が普通救命講習を受けている。 理事長より、月に2回、勉強会を開いてもらい医療面について学んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団と連携をとり、定期的に火災・地震を想定した避難訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重に努め、言葉掛けや対応について、ミーティングで話し合うなど、日々の支援のあり方を検討している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望や思いを尊重し、表現できる様声かけを行っている。 また、言葉の出にくい方へは、時間をかけ表情や行動にて理解に努めといる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでのおおまかな1日の流れはあるが、一人一人のペースに合わせ支援している。 また、本人様の思いがわかるような声かけを行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の馴染みの理髪店などに出掛ける機会を設けている。 また、好みの洋服を着て頂いたり、化粧等身だしなみをされるように声かけしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを調査し、すぐに分かるよう表に示して、献立に活かせる様、工夫している。 また、調理の下ごしらえ、下膳などその方の力を引き出し、役割を持ってもらえるよう支援している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や水分量の記録を行い、把握している。また、摂取量が少ない場合は個人の好みの物で補うよう工夫している。その方の力を引き出すよう、自力摂取ができる様に声かけや食器の工夫を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の能力に応じて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄をチェック表を活用し、定期的にトイレ誘導にて排泄できるように支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、牛乳や野菜ジュースを飲んで頂いたり、好みの物ですい便摂取量が増えるように工夫している。また、レクリエーションや散歩にて身体を動かされるようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備を行い、その方の希望に添えるようにしている。また、本人様の好みに合わせた湯の温度調節を行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に身体を動かして頂くなど、活動を考え、一人ひとりの生活習慣に合わせて、居室誘導を行っている。また、その方にあった室温や寝具などを配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を個人別に記入し、変更があった時も確認しやすい工夫をしている。各個人の薬の内容を勉強会で説明をうけている。投薬マニュアルにそって実施し、徹底した服薬管理に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様ができられるような作業はお願いし、役割を持ち生活で起用に支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画を立て、外出したり地域の行事・祭りなどには、職員と一緒に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望はもちろんのこと、お金をもって出掛けられることも支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に添って電話をかけるお手伝いをしている。手紙は本人様が書けなければ代筆したり、写真を入れたりして本人様の様子が伝わるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面にも配慮した空間作りを行い、家庭に近い雰囲気でも過ごせるよう工夫している。テーブルや居室には、季節の花を入居者の方が生けていらっしゃる。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたい時は、居室に戻りゆっくりしていただく。 食事やくつろいだ時間は、入居者様同士と一緒に楽しくできるように支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	独り部屋になっており、テレビがあったり写真・花が飾ってあり、本人様が居心地良く落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	仲間同士で、会話ができるように工夫し、ソファや畳も利用しやすくし、ゆっくり過ごすことができている。		